

機関リポジトリと ERDB-JP 連携による大学紀要等の可視性向上について（依頼）

平成 27 年 10 月 30 日

これからの学術情報システム構築検討委員会

1. 依頼の趣旨

これからの学術情報システム構築検討委員会では、国内電子リソースデータの一元的な作成・管理による、大学図書館等の現場における作業効率の向上及び利用者のアクセシビリティの向上を目指しております。

その活動の一環として、これからの学術情報システム構築検討委員会の下に設置された電子リソースデータ共有作業部会が運用主体となって、本年 4 月 1 日付けで ERDB-JP（詳細は別紙参照）を構築し、運用を開始いたしました。

ERDB-JP の収録対象となっている、パッケージ外の国内電子リソースの大きな一角を占めているのは、大学紀要をはじめとする機関リポジトリのコンテンツです。実際に、ERDB-JP では紀要コンテンツが 88%(10,004 件/11,309 件)を占めています。

機関リポジトリ担当者が ERDB-JP に出版物データの登録を進めることで、ERDB-JP 内の紀要コンテンツの網羅性・データ品質の向上が図られます。さらに、CiNii Books やディスカバリーサービス、リンクリゾルバ等を通じて登録データの利活用が進むことで機関リポジトリコンテンツの可視性の向上が期待できます。

2. 具体的な連携内容

現在、機関リポジトリ推進委員会が開催する、機関リポジトリ担当者向け説明会・講習会等において、電子リソースデータ作業部会が以下のような活動を実施しております。

(ア) ERDB-JP のパンフレットの配布

(イ) ERDB-JP のデータ登録及び利用デモ

今後もこれらの活動を発展させ、パートナー機関の拡大と登録コンテンツの充実を図りたいと考えておりますので、機関リポジトリ担当者に向けた ERDB-JP の広報普及に対する活動へのご協力をお願いいたします。

以上

1. ERDB-JP とは

ERDB-JP (Electronic Resources Database-JAPAN) とは、国内刊行電子リソースのナレッジベース (タイトルや URL など電子リソースにアクセスをする際に不可欠な簡易メタデータを最新の状態で保持するデータベース) です。

2. 構築の背景と目的

(ア) 背景

電子リソースのタイトル数増加によって、以下のような課題が生じていました。

- ① 管理対象となるアクセス情報の増加
- ② 各機関における管理・作成作業の重複
- ③ パッケージ外国内刊行電子リソースの利用者に対するナビゲート不足

(イ) 目的

ERDB-JP は、特にパッケージ外の国内刊行電子リソースについて、以下を目的として構築されました。

- ① 一元的な作成・管理による、作業効率の向上
- ② 国内外へのデータ流通による、学術情報へのアクセシビリティの向上

3. 収録対象

(ウ) 日本語が主な使用言語となっている電子ジャーナル・電子書籍

(エ) 編集、発行の責任主体が日本にある電子ジャーナル・電子書籍

※ただし、CiNii Article (NII-ELS) 等のパッケージは現在対象外となっています。

4. コンテンツ数

全コンテンツ数 : 11,309 件 (10/22 現在)

内、リンク切れ発生件数 : 1,300 件 (4/1 時点)、残件数 : 800 件 (10/22 時点)

5. パートナー数 (10/22 現在)

パートナーA (全コンテンツの管理が可能) : 25 機関

パートナーB (自機関コンテンツの管理が可能) : 3 機関

6. ERDB-JP の具体的な利用例

CC0 1.0 Universal の下に公開されており、データの検索・閲覧・ダウンロードを含む利用は国内外を問わず、どなたでも可能です。代表的な利用例を以下の通りです。

(オ) ディスカバリーサービスやリンクリゾルバからの利用

(カ) OPAC からの利用

商用ナレッジベースベンダーまたは ERDB-JP サイトから登録データをエクスポートし、タイトルリストの作成や図書館システムへの取り込みが可能です。